

協働通信

都留の市民の活動

Vol.8 都留文科大学生サークル「VS」

東日本大震災の被災地で、災害ボランティア活動を行う都留文科大学生サークル「VS(バーサス)」代表の宮下凌瑚さんにお話を伺いました。



■ VS(バーサス)代表
宮下凌瑚さん

私たちVSの結成は、前代表の大久保さんが、被災した祖父母の所に行きボランティア活動を行う中で「被災地の現状をもっと多くの学生に知ってほしい。」という想いを持ったことがきっかけでした。私がVSの活動に初めて参加したのは去年の7月で、それ以降、釜石や気仙沼でボランティア活動を行ってきました。最近では3月9日から12日までの間、釜石でボランティア活動を行う団体が主催する「かまいいし復興の祈り」に参加させてい

▽都留市まちづくり
市民活動支援
センター
都留市上谷2-1-15
都留市役所
新町別館1階
▽開館
月～金(祝日除)
8:30～17:15
▽問い合わせ先
mail: shien@city.
tsuru.yamanashi.jp
☎(46)5236
FAX (46)5237

ただきました。この活動で私たちは、模造紙に木を描き、その上に、都留市内の小学校の子とも達や店舗の皆さんに書いていただいたメッセージと、釜石で出会った皆さんに書いていただいたメッセージを葉や花びらに見立てて飾り、釜石駅構内に展示しました。

私はこれまでに、被災地の方々とたくさん言葉の交わしてきましたが、「被災した私たちやこの地域のことを忘れないでほしい。」という言葉が強く心に残っています。これからは、被災地で活動を行う中で感じた事や、被災された方々の想いを地域の小学校や中学校、高校生に伝えていきたいと考えています。



■メッセージを飾り付けている様子

Vol.9 城下町つるの雛まつり展 実行委員会

平成24年4月7日～22日に開催予定の第3回城下町つるの雛まつり展を企画運営する実行委員会委員長の富永元恵さんとお話を伺いました。



■城下町つるの雛まつり展実行
委員会委員長の富永元恵さん

「城下町つるの雛まつり展」は、関係者の皆さんの温かいご支援とご協力により、今年で3回目を迎えることができました。今年の雛まつり展も、市民の手作りの吊るし雛を展示する予定です。

私たちがこの企画を始めようと思ったきっかけはいくつかあるのですが、やはり私たちが住むこの都留市をもっと活性化したいということでした。

そこで考えたときに都留市はもともと城下町です。住んでいるとあまり実感しません。市外の方から羨ましがられたり、もっとアピールすればいいのといった声を聞いたりします。

この城下町らしさを活かし、各家庭に眠っているお雛さんをもう一度皆さんに見ていただけるような企画をした

い、また、雛まつりは昔から子ども達の健やかな成長を願ったものであり、子育てを地域の皆で見守れるような地域づくりをしたいと考えました。さらに、都留市にある施設をもっと市民で活用したいということを考えて行ってきました。

今後は、この企画を皆で継続させていき都留市の伝統行事のようになればいいと考えています。また、市内で活動されている様々な方達のお知恵やお力添えをいただきながら、市民の皆さんと一緒に盛り上げていければと考えています。また、都留市には都留文科大学があり、全国から集まる3千人もの学生さんがいるので、学生さんとも一緒にできればいいと思います。



■雛まつり展の様子：色鮮やかに飾られています。